

平成27年
春までに
実施予定

路線のループ化や 新型低床車両を導入

より便利で暮らしやすいまちにするとともに、新たな魅力やにぎわいをつくり出すため、路線のループ化（環状化）など、さまざまな取り組みを行います。

ループ化

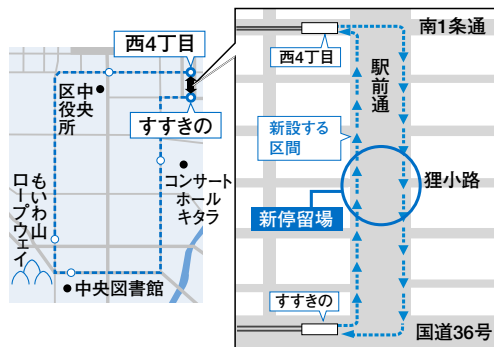
27年春
開業予定

西4丁目～すすきのの停留場の間に 新たな路線を設置

駅前通の西4丁目～すすきのの停留場の間の約400mを結びます。これにより、例えば、すすきのから中央区役所まで向かう際は、路線を遠回りせず、より短い時間で行くことができるようになります。

ポイント

この区間は、電車が道路の歩道側を走る「サイドリザベーション方式」を採用。歩道側から乗り降りができるようになります。



〈データ〉 ループ化の費用：約19億円

新車両

27年春までに
3車両導入予定

高齢者も乗り降りしやすい 新型低床車両を順次導入

乗降口を低くすることで停留場との段差を少なくし、高齢の方など誰もが利用しやすい車両にします。また、全長を延ばし、定員を現在の約60人から2割程度増やします。

ポイント

本年度、1車両の製造を開始し、来年春ごろから運行。27年春までにさらに2車両の導入を予定しており、その後も計画的に導入します。



〈データ〉 1車両当たりの費用：約2億6,000万円

停留場

新しい路線の停留場周辺を にぎわいのある場所に

新設する狸小路の停留場などは、都心の街並みにふさわしいデザインを導入。また、観光情報や路線沿線のイベント情報などが得られる仕組みづくりを進めます。

ポイント

新しい停留場の周辺などでは、地域と連携した催しの実施のほか、歩行者も利用できる休憩スペースの設置も検討します。



そのほかにも

今ある路線をもっと便利にします

停留場のバリアフリー化を進めていくほか、老朽化した線路を振動や騒音を抑えるものに順次取り替え、乗り心地の向上を図ります。また、来年度には、ICカードSAPICAでも運賃の支払いができるようになります。



路面電車 Q&A

Q 停留場のバリアフリー化は、いつから進めていくの？

A: 27年度ごろから、道路の拡幅工事と連携して進めていきます。バリアフリー化により、停留場の幅が広がるほか、スロープも設置され、高齢者なども利用しやすくなります。